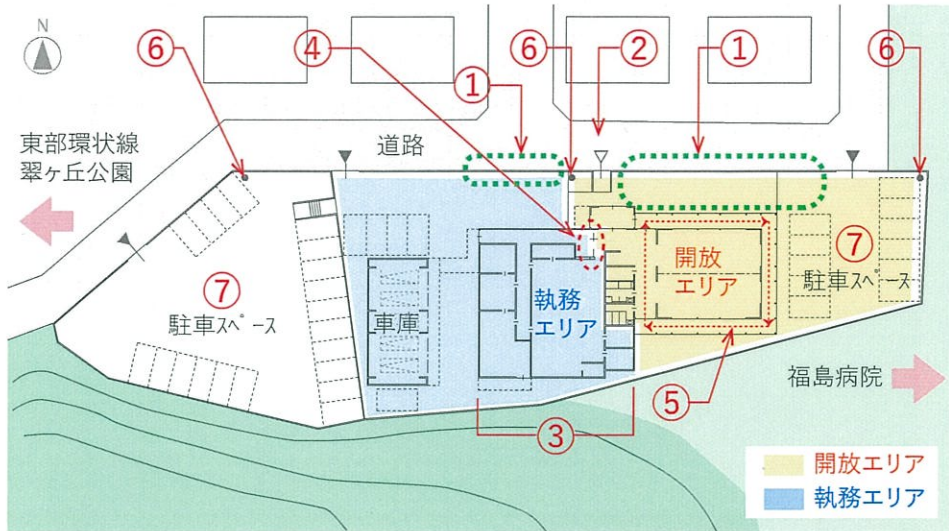


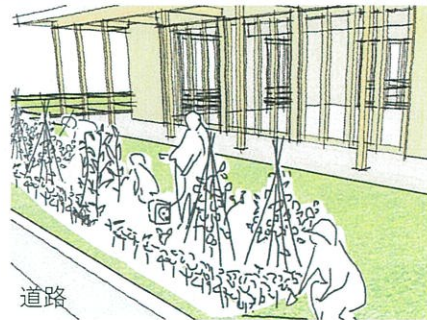
# みんなの須賀川農業普及所

## (1) 周辺地域と共生する施設の在り方に対する提案

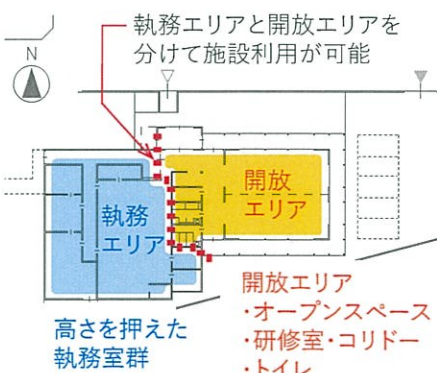
須賀川農業普及所は誰のもの？もちろん、庁舎として、快適な執務空間を作り出すことも重要です。しかし、地域に寄りし住民が誇りに思える。そのような公共建築になるように提案します。



①北側道路沿いにフェンスや擁壁を作らず、垣根や草花や作物で緩やかに区画し、町内会との共同による野菜づくりや、子供たちの自由研究の場ともなります。



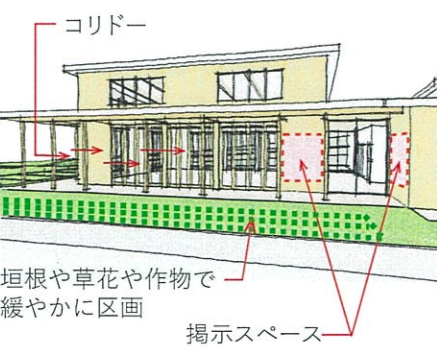
②透明感のあるファサードにより、開放性を高め、温もりが感じられる木材の外壁から、住民への安心感を醸成します。



③北側の住宅への日照に配慮し高さを抑えた執務室群とします。

④東側を住民、来庁者開放エリア、西側を執務エリアに明確に分けた平面計画とします。そうすることにより、執務室のセキュリティを高めることができ、オープンスペースと研修室、トイレを地域開放でき、情報提供や相談に柔軟に応じられるようにします。

⑤回遊コリドーを利用し、県政・農政情報、家庭菜園情報が掲示物などにより提供できます。住民の軒下市などイベントにも活用できます。

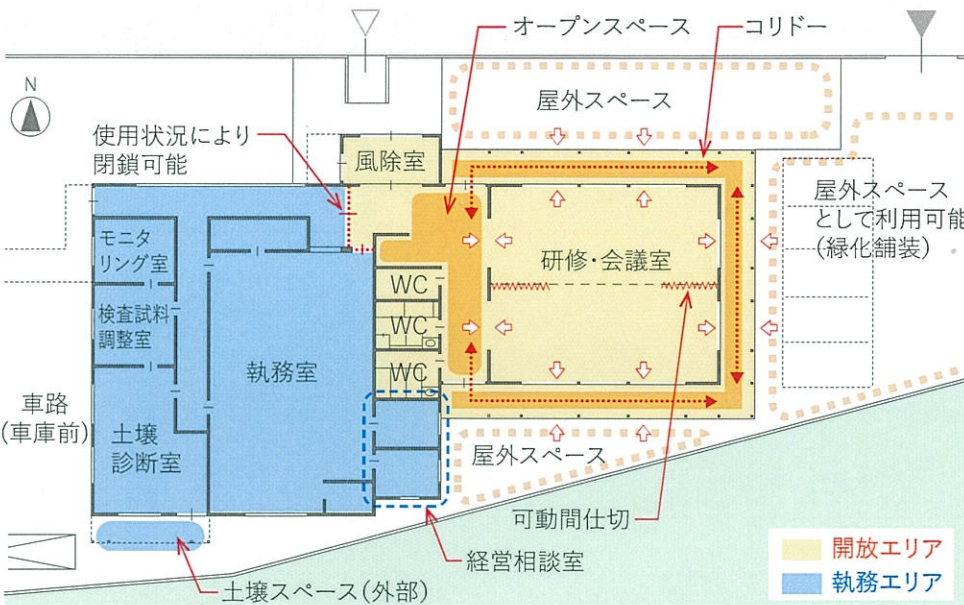


⑥常夜灯を設置し地域防犯にも寄与します。

⑦敷地の東西端に駐車場を設けることにより交通や騒音等に配慮します。

## (2) 次世代の農業普及所として施設の実効性確保に関する提案

須賀川農業普及所は誰のもの？もちろん、庁舎として、快適な執務空間を作り出すことも重要です。しかし、農業者にとって快適で、訪れてみたい、もっと能動的に活用したいと思える。そのような公共建築になるように提案します。



①コリドーと内部空間のオープンスペースにより回遊性が生まれ、直販会やイベント利用への可能性が広がり農業者の継続的、能動的な活動につながります。

②コリドーとオープンスペースは、情報提供の場として、農業者、六次化のグループ、住民などの交流を生むための掲示スペースを設けます。



③オープンスペースには、農業者が気軽に訪れ、最新のスマート農業に触れられる情報コーナー（画像や図書が閲覧できるスペース）を提案します。

④研修・会議室は、外部への開口を大きく取ることで、外部との一体利用ができ、コリドーで土水を使った講義もできるようになります。

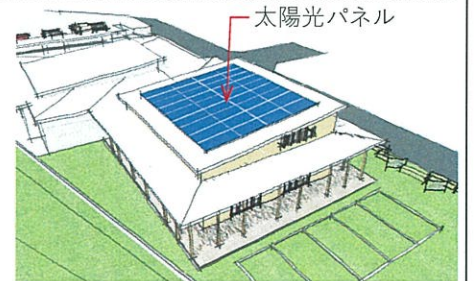
⑤可動間仕切の設置や、空調・照明の分散配置により、より効率的な会議の空間を生み出すことができ、小規模な会議を同時並行し行うことができます。

⑥南側端部の落ち着いた空間でプライバシーを守りながら面談ができる経営相談室を作ります。

## (3) その他本施設の計画において特に重要と考える提案

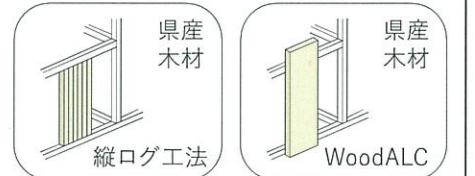
須賀川農業普及所は誰のもの？もちろん、庁舎として、快適な執務空間を作り出すことが重要です。職員にとって働き易く、管理しやすい、先進的な公共建築物になるように提案します。

①高断熱の外皮と高効率、省エネ機器の利用により、省エネで50%、20kw太陽光パネルによる発電の創エネで30%の計80%削減を目標としてNearlyZEB取得を目指します。



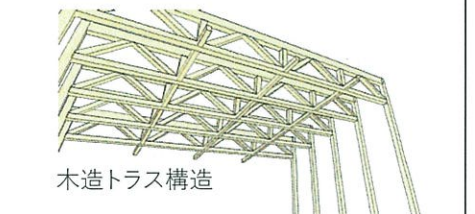
②庇や軒の出を適切に決めることにより、日射遮蔽と採光の両立を図ります。

③外部仕上げに高耐久の材料を利用することにより、長期修繕コストの低減が図れ、ライフサイクルコストを縮減でき、長く使っていける建築物となります。



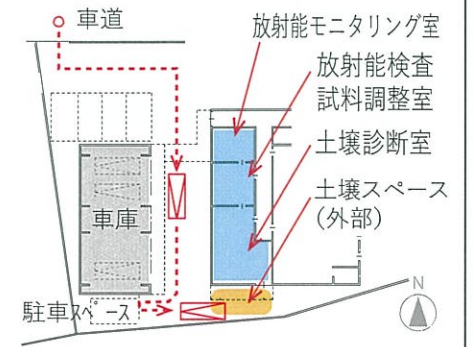
④縦ログ工法やWoodALCなど、県産木材をたっぷり使うことで、脱酸素社会の木材利用の先進的建築物とします。

⑤建築物の構造は、木造とし、研修・会議室も可変性がある利用形態を考え、無柱の大空間とします。梁の架構はトラス構造とし、県産木材の流通材の4寸角程度の組み合わせにより実現し、木材の構造美が感じられるようにします。



⑥執務室は建物の中心に配置し、各所への移動もスムーズに行えます。

⑦土壌診断室・放射能検査試料調整室・放射能モニタリング室は、検査機材の搬入や外部からの試料や検体の搬入などを考慮し、車庫に近く直接外部から搬入できる位置に設けます。



⑧執務室は、北側のハイサイドから安定した採光や通風が得られ、清廉な執務空間が維持できます。

⑨必要室にはありませんが、職員のロッカー室や休憩室、長靴の収納などの設置も検討し職場環境の向上を目指します。

